

**就労女性の育児と仕事の両立における
デジタルデバイスの有効活用に関する文献検討**

三橋 祐子

東海大学医学部看護学科

研究の流れ

検索日 2024年1月5日

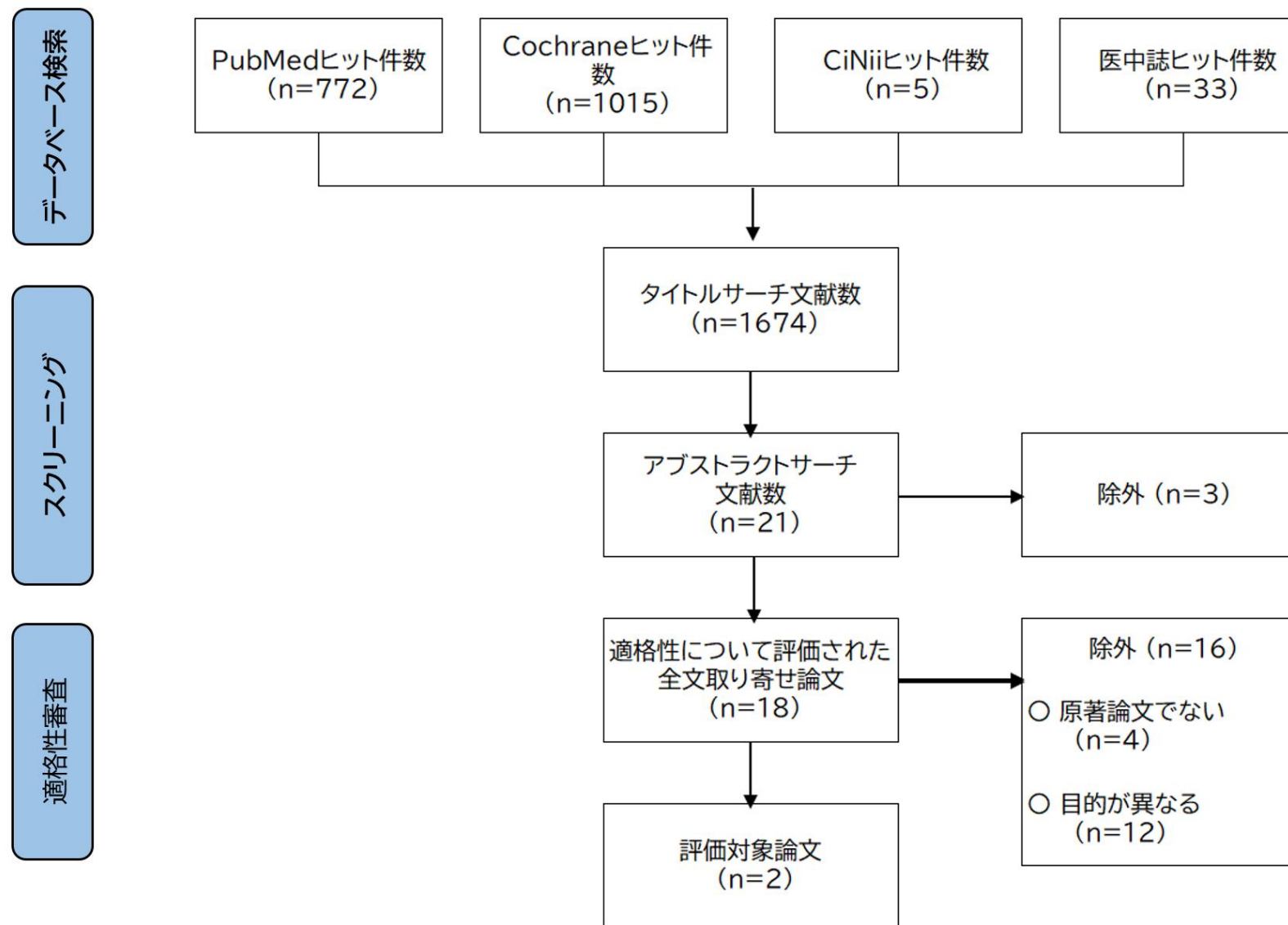


図1. 評価対象論文抽出フローチャート

研究の特徴

著者 (発行年) 国	対象者	研究 デザイン	介入内容	対照群	介入期間	評価項目	結果
Bunik M, (2022) スペイン	介入群：227名 対照群：119名 英語またはスペイン語を話す 初産の母親（18歳以上、スマホあり）	RCT	・社会的支援を得る方法の通知 ・母乳育児に関する問題（哺乳 困難、母乳分泌不足、職場復帰 など）を克服するための通知	介入なし	出産前～出産後 3M毎日	・母乳育児率 (3M/6M) ・母乳育児への自信や 知識 ・母乳育児に対する自 己効力感尺度(BSES- SF) ・社会支援認知評価 ツール	・母乳育児率に差はなかった ・介入群で母乳育児に対する自己 効力感と社会的支援の認知に関す るスコアが有意に高値
Seddighi, A (2022) イラン	介入群：99名（うち31.3% 就労女性） 対照群：99名（うち17.6% 就労女性）イラン国籍、読み書 きができ、 生後24時間以内に母乳育児を 開始、 疾患の既往がない者（スマホあ り）	RCT	下記の通知 ・母乳育児の利点 ・母乳成分 ・1日の授乳時間や頻度のパター ン ・母乳育児の阻害要因や対処法 等	介入なし	出産後2M 毎日	・母乳育児に対する自 己効力感尺(BSES- SF)	・介入群の女性の母乳育児に対する 自己効力感が高まった

結果のまとめ

- 就労女性に焦点を当て、デジタルデバイスの活用により育児と仕事の両立をアウトカムとした文献は見当たらず、SRによる明確化はできなかった
 - デジタルデバイスを活用した育児に関する研究において、その多くが母乳育児に関するものであった
 - “復職” や “就労”に関する要因はほとんど示されていない
 - 近年、我が国では、母子保健情報や母子健康手帳のデジタル化が進んでいる
- ① 1つ以上のSRやメタアナリシスで有意に効果ありという結果がある
 - ② 質の良いRCTが5本以上ある
- ①、②ともになし……推奨を保留する

Future research Question

就労女性における育児と仕事の両立を目的に、今後、エビデンス蓄積が望まれる具体的な研究のテーマとして、

- 母乳育児における自己効力感の向上をアウトカムにしたアプリケーションの効果
- 就労女性の復職時に母乳育児を継続する／離乳・卒乳するためのアプリケーションの開発
- 就労女性における育児と仕事の両立を支援するようなアプリケーションの開発
(例えば、育児と仕事の両立に関する不安や悩みの相談・解消等)

を提案したい。